

産婦人科

第1 産婦人科長 加賀 敬子

<特徴>

産婦人科は女性生殖器（子宮、卵巣、卵管、膣）、および関連した内分泌器官（視床下部、下垂体）を扱う診療科です。

現在、所属医師は産婦人科専門医5名、産婦人科専攻医1名の6名体制となっています。

当院産婦人科は両磐地方における基幹病院としてのみならず、岩手県奥州地方から宮城県北等にわたる総人口約30万人の医療圏を有しております。

産科分野においては、平成23年4月から岩手県地域周産期母子医療センターとしての運営を開始し、新生児科の協力のもとに早産を含めたハイリスク分娩に対応しており、週1回の産婦人科、新生児科、および病棟・外来スタッフとのカンファレンスを開催し、周産期チームとしての意思統一を図っています。令和元年8月には、これまでスタッフが一丸となって取り組んできた母乳育児推進活動が評価され、WHO(世界保健機構)とユニセフによる「BFH:baby friendly hospital (赤ちゃんにやさしい病院)」に認定されております。

婦人科分野においては良性疾患から悪性疾患まで幅広く対応が可能です。良性腫瘍の治療においては、日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医を軸として全腹腔鏡下子宮全摘術(TLH)、子宮筋腫核出術、子宮付属器腫瘍摘出術等を多数行っており、最近では近年増加している骨盤臓器脱に対する仙骨脛固定術(LSC)も開始しております。悪性腫瘍に関しては、地域より多数の紹介があり、がん治療専門医/日本婦人科腫瘍学会認定婦人科腫瘍専門医が在籍し、岩手医科大学、東北大学、宮城県立がんセンター等の高次医療機関、及び院内の放射線診断科・治療科、外科、内科、泌尿器科、緩和医療科等の各科と連携し、治療にあたっております。

<対象となる疾患>

産科：正常、異常によらず妊娠にかかわる全般及びおおむね妊娠34週以降の分娩

婦人科：感染症、腫瘍、月経困難症、内分泌異常、更年期障害、性器脱等の診断と治療

<施設認定>

日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設

日本周産期・新生児医学会専門医制度母体・胎児認定補完施設

日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設

岩手県地域周産期母子医療センター

母体保護法指定施設

BFH (赤ちゃんにやさしい病院)

<診療実績> (2024年4月～2025年3月)

手術件数：婦人科手術件数841件(開腹手術23件、腹腔鏡下手術180件、経膣手術等638件)

分娩：433名出生(うち帝王切開分娩140名、双胎3名)

放射線治療科

放射線治療科長 阿部 恵子

<特 徴>

放射線治療科は、2015年7月より常勤体制となり10年目を迎えようとしています。院内紹介のみでなく、近隣の病院からも幅広くご紹介をいただいております。直線加速器（リニアック）によるX線、電子線を用いた放射線治療（体外照射）のほか、骨転移を有する去勢抵抗性前立腺癌に対する塩化ラジウム注射液も投与可能です。

対象となる疾患は9割以上が悪性腫瘍であり、治癒を目的とした根治照射、癌による疼痛や出血などの苦痛症状軽減のための緩和照射、乳癌の術後照射などをおこなっています。良性疾患も照射適応となることがあり、甲状腺眼症、ケロイドの術後照射などがその対象です。

2022年3月にはリニアックの更新をおこない、強度変調放射線治療をはじめとする、これまで以上に高精度な治療を地域の患者さんに提供することが可能となりました。放射線技師、看護師とともに協力しながら日々診療に励んでいく所存です。

<スタッフ紹介>

1 医師名（職名）等

阿部 恵子 放射線治療科長 平成17年度東北大学卒

2 専門分野

X線、電子線による体外照射

3 主な資格等

日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会 放射線治療専門医

<診療実績>放射線治療患者数(2024年1月～2024年12月)

目的別

根治	64件
緩和	70件
術後	38件
その他	4件
合計	176件

疾患別

乳癌	42件	頭頸部癌	5件
前立腺癌	33件	リンパ腫	6件
肺癌	25件	結腸・直腸癌	12件
食道癌	6件	腎・膀胱・尿管癌	14件
膵癌	3件	婦人科癌	8件

画像診断科

画像診断科長兼放射線科長 照山 和秀

<特 徴>

画像診断科では、C T・MR I・血管撮影・核医学検査などの画像診断全般、画像ガイド下による生検やドレナージ、カテーテルを用いた血管内治療を1名の診断専門医（常勤）が担当しています。

<スタッフ紹介>

1 医師名（職名）等

照山 和秀 画像診断科長兼放射線科長 平成6年度東北大卒

2 専門分野

- (1) カテーテルを用いた血管内治療。（外傷や消化管出血、不正出血などに対する動脈塞栓術、透析シャント狭窄に対する血管拡張術など）
- (2) 画像ガイド下での生検やドレナージ。
- (3) C T・MR I・核医学などの画像診断。

3 主な資格等

日本医学放射線学会専門医

<2024年1月1日～2024年12月31日までの読影件数>

C T	4,049 件
MR I	1,298 件
シンチ	216 件
アンギオ	11 件
一般撮影	0 件
計	5,574 件

眼 科

眼科長 今泉 利康

<特徴>

眼科は視覚を担う感覚器を扱う専門領域です。眼瞼・眼窩・眼球・外眼筋・視神経と分野も多岐にわたります。健康で自立した生活を送るためには視覚情報は不可欠なものであり、高齢化が進行する現代社会においては、その役割はますます重要になっております。今後も地域の皆様の視力の向上に貢献できるように、視能訓練士、看護師とともに励んで参ります。

<対象疾患>

白内障 緑内障 網膜疾患 屈折異常 ドライアイ 他

<診療内容>

視力検査 前眼部検査 眼底検査 眼圧検査
レーザー治療 白内障手術 硝子体注射

<診療実績>

白内障手術 190 件 後発白内障手術 68 件 網膜光凝固術 25 件
硝子体注射 291 件

耳鼻いんこう科

耳鼻いんこう科長 吉田 拓矢

〈診療科の特徴〉

当科は平成30年4月から耳鼻咽喉科医2人での常勤体制となり、令和3年7月からは3人体制で診療をおこなっております。良性疾患については、耳・鼻・咽喉頭手術と幅広く行っております。また悪性疾患に関しては、岩手医科大学、東北大学と連携し診療にあたっており、緊急手術が必要となる頸部膿瘍などの対応もしております。

〈対象となる疾患〉

耳：難聴、耳鳴、耳性めまい、中耳炎など

鼻：アレルギー性鼻炎（後鼻神経切断術も行っています）、慢性副鼻腔炎、嗅覚障害など

口腔、咽喉頭：扁桃炎、嗄声、味覚障害、口内炎など

頭頸部腫瘍：口腔、咽頭、喉頭、鼻腔、唾液腺、頸部の良性・悪性腫瘍

その他：顔面神経麻痺、唾石症、嚥下障害、睡眠時無呼吸（手術加療も行っています）など

〈診療実績〉（2024.4～2025.3）

内視鏡下鼻副鼻腔手術	57件	唾石摘出術	0件
鼻中隔矯正術	20件	顎下腺摘出術	3件
鼻甲介切除術	78件	耳下腺腫瘍摘出術	6件
鼻茸摘出術	0件	リンパ節摘出術	1件
涙囊鼻腔吻合術	3件	鼻腔粘膜焼灼術	40件
鼻骨骨折整復固定術	4件	鼻内異物摘出術	2件
口蓋扁桃摘出手術	78件	扁桃周囲膿瘍切開術	10件
アデノイド切除術	16件	咽頭異物摘出術	7件
先天性耳瘻管摘出術	7件	外耳道異物除去術	3件
鼓膜切開術	5件	硬性内視鏡下食道異物摘出術	0件
鼓膜（排液、換気）チューブ挿入術	10件	深頸部膿瘍切開術	3件
喉頭直達鏡下喉頭微細手術	0件	気管切開術	5件
喉頭ファイバー検査	1,211件	穿刺吸引針細胞診	66件
鼻腔ファイバー検査	1,573件	組織生検	88件
嚥下内視鏡検査	143件		

総合診療科

理事兼総合診療科長 加藤 博孝

2017年1月より総合診療科の外来を開設しました。

【磐井病院総合診療科の概要】

当院は、2016年4月から総合診療科の診療を開始しました。

2018年4月より新専門医制度がスタートし、「総合診療専門医」の専門研修が開始されました。当院は岩手県南部総合診療医育成プログラムの基幹施設となっていました。

2022年4月1日から、岩手県の総合診療プログラムは岩手医科大学救急総合診療科が中心となり、岩手県全体で運営することになりました。当院は、岩手県統一プログラムの機関施設となります。

「総合診療」は、「病院総合診療」、「家庭医療」、「救急医療」に分けられます。共通点は「臓器・疾患にとらわれずに全人的な医療を提供する」ことです。日本全国でみると病院の総合診療科では、3つの比率がそれぞれ異なり、診療内容は施設ごとにまちまちです。

当院の総合診療科は「病院総合診療」の比重が大きいです。救急医療は、「救急科」が対応しており、「家庭医療」は行っておりません。

当院総合診療科は、複数の健康問題を持っている患者さん、原因不明の発熱や病態不明の患者さんについて院内の各診療科と協力して診療しています。

2020年度より臨床初期研修において1か月間の「一般外来研修」が義務化されました。初期研修医の一般外来研修の一部を総合診療科で担当しています。臨床問題や診断が特定されていない初診患者の外来診療を研修医が、病歴を聴取→身体所見から、臨床推論を行い、計画立案に至るまでの過程を実地で訓練します。研修医が、患者さんならびにご家族への接遇やメディカルスタッフと協働し、親しまれる医師を育てるよう行動しています。

原因不明の発熱・浮腫・体重減少など、診療科が決まらない主訴や病態の患者さんにつきましては、総合診療科医師に直接相談いただければ幸いです。

→総合診療科医師直通：08032125193（平日 9:00-17:00、および緊急時）

磐井病院総合診療外来

予約方法	総合診療科医師直通：08032125193（平日 9:00-16:00、および緊急時） 磐井病院予約センター：0191-23-3453（平日 9:00-17:00）
外来	平日 9:00-16:00 予約制
対象疾患	<ul style="list-style-type: none"> ● 原因不明の発熱・浮腫・体重減少など、診療科が決まらない主訴や病態の患者 ● 複数の健康問題をもった患者さんの診療 ● ニコチン依存症に対する禁煙外来 ● 外科疾患：甲状腺、乳腺、鼠径部ヘルニア、肛門疾患（内痔核の日帰り手術） ● 成人の予防接種 ● 外来がん薬物療法（緩和医療科と連携）
診療概要	院内の各診療科、医療相談室、地域連携室と連携 院外へのコンサルテーションもしながら患者さんの健康問題解決を図る
医師	加藤博孝（総合診療指導医、外科学専門医、感染コントロールドクター、岩手医科大学臨床教授）
入院対応	入院が必要な場合は、院内の診療科あるいは院外に依頼する

研修医外来

- 半日で、1 から 2 名の患者さんを指導医とともに診察→指導医とともに mini-CEX で評価
- EPOC-2 での評価
- 主治医意見書記載
- 苦痛のスクリーニング
- 新患は、Ubie 問診システムを使用
- 救急外来で診察した患者さんの再診
- 感染症症例検討会での講師
- AST 症例検討会の症例まとめ

総合診療科週間スケジュール (2024/4/1-2025/3/31)

	月	火	水	木	金	土	日
7:45							
8:30-9:00	ミーティング	救急科 ミーティング	ミーティング	救急科 ミーティング	ミーティング		
9:00-12:30	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集		
12:30-13:30	休息	休息	休息	休息	休息		
13:30-15:00	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集	外来 情報収集		
15:00-16:00	ミーティング ミニレクチャー	ミーティング ミニレクチャー	ミーティング ミニレクチャー	ミーティング ミニレクチャー	ミーティング ミニレクチャー		
16:15	AST 症例検討会			感染症症例検討会			
17:15							

主な診療実績

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
禁煙外来初診患者	14 人	10 人	19 人
新患者	35 人	37 人	31 人

脳神経内科

副院長兼第1脳神経内科長 川守田 厚

<特徴>

岩手県南、宮城県北の救急を受け入れている総合病院で脳神経内科の常勤医がいるのは当院だけです。そのため、当科の入院患者の大部分は脳血管障害、けいれん、意識障害などの救急患者で占められています。特に脳梗塞に関してはtPA治療を行っているため、他院からの診療依頼は多くなっています。自己免疫性神経疾患、脱髄性疾患などの専門的な疾患に関しては、免疫グロブリン大量療法、免疫吸着療法などの特殊な治療を行っています。

外来はパーキンソン病、てんかんなど専門知識を必要とする慢性疾患の患者が多く、他院に診療依頼をすることが困難なことが多い状況です。脳血管障害、パーキンソン病、神経免疫疾患、頭痛の専門医が週1回の割合で外来を担当しています。また、脳血流SPECTやMRI稼働しているため認知症の診断、治療の依頼が多く、院内でも脳神経内科の医師が認知症サポートチームの一員として活動しています。

<対象となる疾患>

代表的な疾患

脳血管障害（脳血栓症、脳塞栓症、一過性脳虚血発作など）

認知症（アルツハイマー病、レビー小体型認知症、血管性認知症など）

脳変性疾患（パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など）

脱髄疾患（多発性硬化症、視神経脊髄炎）

頭痛、てんかん

脳炎、髄膜炎

眼瞼痙攣（がんけんけいれん） 片側顔面痙攣（けいれん）

末梢神経障害（ギランバレー症候群、慢性炎症性脱髄性多発神経炎など）

筋疾患（筋炎、筋ジストロフィーなど） 脊髄疾患

<診療内容>

外来受診には基本的に紹介状が必要となります。CT, MRI等の検査は検査日を予約して受けていただきます。筋電図、神経伝導速度の検査は毎週火曜日に行っています。外来診療は岩手医大神経内科、北上済生会病院等より応援を頂きながら当院の脳神経内科医師の一人が外来担当医として診療を行っております。急患の対応等で予約時間内に診察が困難な状況になることがありますのでご理解をお願いします。

<診療実績>（令和6年度）

患者	入院（延べ）	5,859	人	検査 治療	t-PA	0	件
	退院	303	人		ボトックス	47	件
	外来	4,141	人		MRI	1,035	件
	新患	238	人		CT	765	件

救急科

救急科長 片山 貴晶

<診療科紹介>

救急科では中村紳副院長、および片山貴晶救急科長、前川慶之災害医療科長の3人の救急科専門医を指導医として、後期研修医、二年次研修医及び一年次研修医とともに、主に救急外来を受診された患者さんの診療および入院管理を担当しています。日中、救急外来での患者対応はほとんどすべて当科で担っております。入院患者には急性薬物中毒や外傷の患者さんも多く、少ない人数で日々多忙を極めております。当地域の医療事情を鑑みて、薬物中毒や外傷、熱傷など専門的な診断・治療が必要な急性期疾患はもちろんのこと、不明熱や専門的治療が必要のない肺炎や尿路感染症などの急性疾患や心不全などの慢性疾患、当院に常勤医師不在の血液、腎・内分泌疾患など、また社会的に入院が必要な高齢の患者さんの看取りを含めた入院管理など幅広く担当しております。

<診療実績> (令和6年度)

入院患者数： 637 人
入院患者死亡数： 75 人
救急車・ドクターヘリによる患者収容件数： 3,618 件
救急外来での心肺停止症例の治療実績： 129 人

<学会認定施設>

日本DMAT指定施設

歯科口腔外科

歯科口腔外科長 中山 温史

<特徴>

当科は岩手県南地域の中核病院として、大学病院や関連病院、また地域の歯科医師会等と連携しながら各種疾患に対応しております。

外来診療や全身麻酔下での手術のほか、歯科治療恐怖症の患者さんに対しましては、麻酔科と連携しながら静脈内鎮静法を積極的に取り入れ、治療に対する不安軽減に努めております。また有病者（他科で治療を受けている方）に対しましても専門知識や治療経験を活かして対応しておりますので、安心して治療を受けていただくことができます。

さらに、発達障害を有する方に対しては、麻酔科と連携し、全身麻酔による手術や歯科治療に対応しております。

周術期口腔機能管理として、がん等に係わる手術または放射線治療、化学療法や緩和ケアを実施する患者さんに対しての口腔ケア等も行っております。また、栄養サポートチーム(NST)、呼吸ケアサポートチーム(RST)の一員として、他職種と連携を取りながら入院患者さんの口腔健康管理を支援しています。

☆当科は日本口腔外科学会より認定関連研修施設の施設認定を受けており、口腔外科認定医や専門医の取得を目指す若手口腔外科医の育成にも力を入れております。

<対象となる疾患>

埋伏歯等、顎顔面損傷、炎症性疾患、アレルギー疾患、感染症、口腔粘膜疾患、のう胞および類似疾患、腫瘍および類似疾患、唾液腺疾患、顎関節疾患、神経系疾患、歯科治療恐怖症など

歯科口腔外科診療実績（令和6年度）

外来患者数	4,598名
入院患者数	453名
全身麻酔症例	103件
静脈内鎮静症例	27件

麻 醉 科

中央手術科長 須田 志優
麻酔科長 叶城 倫子
麻酔科医長 菊池 俊慧
(歯科医師) 玉野井 喬

<診療科紹介>

麻酔科では術中管理を中心に、周術期全般に渡る患者の全身管理を担当科と協力して行っております。

令和6年1月から12月までの1年間に、自施設の研修医4名による麻酔研修、奥羽大学歯学部から歯科医師1名の医科麻酔科研修を受け入れました。今後も岩手県立中央病院・岩手医大・東北大の基幹研修施設・関連研修施設として専攻医・研修医・歯科麻酔科医の育成等に励みたいと考えております。

上記と併せて、救急救命士等の研修を行い、令和6年は一関市消防本部に所属する救急救命士に対して気管挿管実習(2名)及び再教育実習(11名)、久慈広域消防本部に所属する救急救命士に対してAWS挿管実習(2名)を受け入れました。

<診療実績> (2024年1月～2024年12月)

麻酔法	症例数
全身麻酔 (吸入)	616 例
全身麻酔 (TIVA)	977 例
全身麻酔 (吸入) +硬・脊・伝麻	170 例
全身麻酔 (TIVA) +硬・脊・伝麻	131 例
脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔 (CSEA)	26 例
硬膜外麻酔	2 例
脊髄くも膜下麻酔	33 例
伝達麻酔	0 例
その他	26 例
合 計	1,981 例

<学会認定施設>

日本麻酔科学会認定麻酔科認定病院
日本歯科麻酔学会認定研修機関